

認定鳥獣捕獲等事業者
捕獲従事者研修実施要領

平成31年3月

発行 環境省自然環境局 野生生物課鳥獣保護管理室

－ 目 次 －

(1) 研修実施要領について	1
(2) 研修の位置付け	1
(3) 研修の開催方法	1
(4) 研修カリキュラムの作成	1
(5) 講師の選定	2
(6) 研修のポイント	4
(7) 研修の進め方	9

(1) 研修実施要領について

この研修実施要領は、受託した捕獲等事業を安全かつ適切に遂行するための基礎知識について、認定鳥獣捕獲等事業者が捕獲従事者に対し研修することを想定して作成しています。研修が適切に実施されるよう、研修の開催方法、講師選定の考え方、研修の進め方等について定めていますので、研修を開催する認定鳥獣捕獲等事業者の事業管理責任者は、本実施要領を踏まえ、研修を開催してください。

(2) 研修の位置付け

認定鳥獣捕獲等事業者は、鳥獣を安全かつ適正に捕獲するため、研修計画を作成し、全ての捕獲従事者に対して毎年5時間以上の研修を実施する必要があります。本研修教材を活用し、その研修の一部として位置づけることも可能です。

(3) 研修の開催方法

研修の開催方法について特に定めはありませんが、研修を実施する認定鳥獣捕獲等事業者は、適切な講師を選定し、適切なカリキュラムをたてて研修することが望まれます。

(4) 研修カリキュラムの作成

研修カリキュラムは、テキストの全ての項目を網羅する必要はありません。テキストの内容を精査し、重点的に研修したい項目のみピックアップして実施することも可能です。また、特に第3章に記載の鳥獣捕獲等事業における捕獲手法と安全管理の内容は、受託した事業の内容や、認定されている捕獲方法や対象鳥獣種によって説明する内容を取捨選択したり、アレンジを加えて研修することが望まれます。次ページに、テキストの全ての項目を組み込んだ場合の標準カリキュラムを示しますので、参考にしてください。

表 捕獲従事者研修カリキュラムの例

時間割	項目	主な内容
10：00～10：45 (45分)	科学的・計画的な鳥獣の保護及び管理	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の鳥獣保護管理の現状 (被害の深刻化、これまでの個体数管理) 科学的・計画的な鳥獣保護管理の必要性 鳥獣の捕獲の担い手に係る現状と課題 鳥獣の管理の強化
10：45～11：30 (45分)	認定鳥獣捕獲等事業者に関連する法令	<ul style="list-style-type: none"> 鳥獣保護管理法の目的、施策体系、各主体の役割等 鳥獣捕獲等事業に関連する各法令 その他、法人組織や契約、労務管理などに関する法令
11：30～12：30	昼食・休憩	
12：30～14：00 (1時間30分)	鳥獣捕獲等事業における捕獲手法と安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 捕獲手法への全般的な理解の必要性 捕獲従事者の安全管理に関する心構え 主な鳥獣の生態と捕獲の留意点 銃器による捕獲 銃器による捕獲の安全管理 わなによる捕獲 わなによる捕獲の安全管理
14：00～14：30 (30分)	指定管理鳥獣捕獲等事業	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理鳥獣捕獲等事業の概要 事業の流れ 事業受託後の事業の流れ

(5) 講師の選定

研修は、講師が重要な役割を果たします。講師は、講習の項目に応じて、鳥獣保護管理に関する知識や経験が豊富な方、安全管理に関する知識や経験が豊富な方、都道府県の事業の発注や業務管理等に精通している方が考えられます。自らの組織に適当な者がいない場合は、外部の専門家に講師を依頼する等、外部の講師を活用することも考えられます。

カリキュラムごとに想定される講師を例示しましたので、参考にしてください。

表 項目ごとの想定される講師の例

項目	想定される講師の例
科学的・計画的な鳥獣の保護及び管理	・鳥獣保護管理に関する知識や講師等の経験が豊富な方 ※人材登録制度の活用を推奨
認定鳥獣捕獲等事業者に関連する法令	・関係する法令を所管する都道府県等の担当部局職員の方
鳥獣捕獲等事業における捕獲手法と安全管理	・捕獲や安全管理に関する知識や経験が豊富な方 ※人材登録制度の活用を推奨
指定管理鳥獣捕獲等事業	・鳥獣捕獲等事業を発注する担当部局職員の方 ・鳥獣捕獲等事業を受注した経験が豊富な事業管理責任者等 ※人材登録制度の活用を推奨

◇◇ 鳥獣保護管理に係る人材登録制度 ◇◇

鳥獣保護管理に係る人材登録制度は、鳥獣保護管理に関する取組について専門的な知識や経験を有する技術者を登録して、地方公共団体等の要請に応じて、登録者の情報を紹介する仕組みです。

「鳥獣保護管理捕獲コーディネーター」（管理計画等の実施の際、現場において適切な捕獲方法の指導、集落等への出没対策や鳥獣による被害防止対策等の助言、指導を行う者）等、講師としてふさわしい知識や経験を持つ方が登録されていますので、ぜひご活用ください。

<http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort1/effort1.html>

(6) 研修のポイント

ここでは、研修テキストの各項目について、テキスト作成時の課題設定を踏まえ、講習する際の基本的なポイントをお示しします。

また、研修の際には、基本的なポイントに加えて、自社が受託した鳥獣捕獲等事業の結果を踏まえ、現場ごとに必要となる技能について適宜盛り込む必要があります。

項目	ポイント
科学的・計画的な鳥獣の保護及び管理	<p>➤ シカ、イノシシ等の鳥獣は増加し、被害は深刻化している</p> <p>近年、ニホンジカやイノシシ等については、急速に生息数が増加し、あるいは、生息域が拡大し、生活環境、農林水産業及び生態系に係る被害が一層深刻な状況になっています。平成 28 年度のニホンジカ及びイノシシの捕獲数は、それぞれ約 58 万頭、約 62 万頭であり、10 年間でそれぞれ約 3 倍、2.5 倍に増加しています。この結果、局地的には、生息数の増加が抑えられている地域もあります。しかし多くの地域では、ニホンジカ及びイノシシの生息数を減少させるに至っておらず、これらの種による被害も低減していません。研修では、日本の鳥獣の生息状況や被害の状況などを踏まえ、認定事業者期待される役割を指導してください。</p> <p>※応用ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業を受託した都道府県等の鳥獣の生息状況（推定生息数、密度） ・ 事業を受託した都道府県等の特定計画の内容 ・ 対策の進捗状況 <p>➤ 発注者と従事者に対して果たすべき認定事業者の責務は大きい</p> <p>認定事業者は、発注者と従事者の間に立ち、大きな責任とリスクを背負って事業を実施していくことが求められます。発注者に対しては、事業の請負者として契約上の責任を果たす必要があります。その責任を果たすためには、事業を遂行するために必要な従事者を確保し、技術的な訓練を行い、指揮命令系統のもとで適切に業務の管理をすることが求められます。すなわち認定事業者は、従事者を適切な条件で雇用し、その技術力を高め、安全に働いてもらう労働環境を確保する責任を果たす必要があります。研修では、認定事業者が発注者と従事者に対し大きな責務を背負っていることを理解していただくよう指導してください。</p>

<p>認定鳥獣捕獲等事業者に関連する法令</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 法令全般については時点修正が必要 テキストに記載されている法令は、研修時に改正されている可能性もあります。研修時には必ず最新情報を収集し、適宜修正の上、研修してください。 ➤ 法人組織や契約、労務管理などに関する法令も重要 認定事業者は、鳥獣捕獲等事業に関連する法令遵守はもとより、法人の運営や契約、労務管理などに関して、一般的に適用される法令についても遵守する必要があります。テキストでは、いくつかの法令について取り上げましたが、その詳細までは解説していません。必要に応じて、関係省庁等のHPを参照するなど、研修内容を工夫してください。
<p>鳥獣捕獲等事業における捕獲手法と安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 捕獲手法への全般的な理解が必要 認定事業者や捕獲従事者の皆さんが、対象鳥獣の種類や環境条件等に応じて適切な捕獲方法を選択するためには、実際に行われている主な捕獲手法について理解しておく必要があります。また、それぞれの捕獲手法の効率性や安全性は、対象鳥獣の生息状況や環境条件によっても左右され、捕獲従事者の経験や能力によっても大きく左右されます。認定鳥獣捕獲等事業者や捕獲従事者の皆さんは、これまでの捕獲の経験や事前調査、試験的な捕獲実験等の成果を踏まえて、適切な手法を選択することが求められることを研修してください。 ➤ 安全を最優先することが必要 鳥獣の捕獲等に用いる銃やわなは、対象となる鳥獣を殺傷したり拘束できる性能をもつため、人にとっても危険なものになります。もしも捕獲作業が原因となる事故が発生した場合、捕獲従事者個人の責任が追及されるだけでなく、業務の継続性等に多大な影響が及びます。そのため、何よりも事故を起こさないことを第一優先にすることを研修してください。 ➤ 周囲にも「見える」安全管理の実施が必要 自分が銃器を安全に取り扱っていることが周囲の人によく伝わるのが、円滑な業務遂行のために重要です。そのため例えば、現場で出会った人へ挨拶等を丁寧に行うことや、発砲の必要がないときには、銃はケースやカバーに入れておく等の基本ルールの徹底は必須です。また、銃声の届く範囲にも配慮する等、細心の注意を払うよう心掛けてください。

一般の人がわな設置場所に不用意に近づくと危険です。わな設置場所周辺の住民や設置場所付近へ出入りする可能性のある人には、わなの特性や捕獲があったときの状況等を伝え、危険の内容を十分に説明することが求められます。

認定事業者やその捕獲従事者には、周囲にも「見える」安全管理の実施が求められることを研修してください。

➤ 暴発・誤射・矢先の不確認の排除を徹底する

暴発による事故を防ぐには、必要時以外は絶対に実包を装填しないことを徹底します。次に、実包を装填した際は、常に自分の姿勢や銃口の方向、銃器の状態を強く意識し、銃器は丁寧に扱います。実包の装填時に安全に配慮した行動をとるためには、装填していないときでも、銃口を人に向けておかない、銃の取扱いや、自分の足場や姿勢には十分に注意する等の習慣をつけておくことが重要です。誤射や矢先の確認不十分による事故を防ぐためには、対象鳥獣の確認だけでなく、その周囲も含めて発砲の可否を十分に確認することが必要です。特に、発射した後の銃弾が着弾する可能性がある範囲をきちんと想定し、その範囲の安全が確認できない限り発砲しないよう研修してください。

➤ 組織的な規程等の確認が必要

捕獲事業の従事者は、発注者の意向と事業者の方針に従って捕獲作業に従事する必要があります。事業の仕様書や安全管理規程、業務計画書をよく確認し、いつ、どこで、どのようなメンバーと、どのような目的で、どの対象鳥獣を、どのような方法で捕獲するのかという計画を、十分に把握することが求められます。

➤ 銃による捕獲に必要な技能、作業、安全管理

銃による捕獲では、対象鳥獣を確実に目視し、命中させることができる距離に近づいたり、対象鳥獣を誘引して射程距離内に引き付けてから、射撃する必要があります。銃による捕獲の手法は、大まかに、「待ち伏せて捕獲する方法」、「探索・追跡して捕獲する方法」、「待ち伏せと探索・追跡を組み合わせる方法」の3つに分けられます。研修では、捕獲方法ごとに必要な技能、作業、安全管理について指導して下さい。また、銃器による捕獲の安全管理について取りまとめた動画を配布しています

ので、映像資料を活用しながら研修していただけると効果的です。

※応用ポイント

- ・ 事業で採用した捕獲方法について情報を共有

➤ 銃器および照準器、弾薬等の選択は適切に行う

対象鳥獣や採用する捕獲方法によって、適切な銃の種類や照準器、弾薬等が変わってきます。適切な用具を選択しなければ、捕獲効率が悪くなるだけでなく、危険性も高くなります。

➤ 銃器の整備、調整、射撃場での訓練等

銃器を使用する捕獲従事者は、最低でも1年に2回は射撃場において射撃練習をする必要があります。また、採用する捕獲方法に応じて、現場における銃の操作に近い種目の射撃練習をすることが重要です。捕獲業務実施の直前には、射撃場において試射や照準あわせを行い、自分の技能や銃の整備の状態を確認するよう指導してください。

※応用ポイント

- ・ 事業で採用した捕獲方法に応じた射撃練習を解説

➤ 周囲状況の把握

捕獲を実施する現場がわかったら、周囲の状況を把握することに努めてください。あらかじめ、人家や林道の配置、人や車両の出入りの可能性、地形や植生等を十分に把握し、銃口を向けてはいけない場所や方向を頭に入れておいてください。同行者の配置については、当日に十分打ち合わせし、また予定の配置場所を離れる場合は、同行者と必ず連絡を取るよう指導してください。

➤ わなによる捕獲の特徴と安全管理

わなによる捕獲は、「対象鳥獣が出没する場所で、捕獲前にも捕獲後にも周囲に危険が及ばないようにわなを設置し、対象鳥獣の警戒心を解いて（あるいは、抱かせずに）、確実に獲物を拘束する。」ということです。具体的には、はこわな、囲いわな、くくりわなを用いて捕獲します。それぞれの捕獲方法の技術的特徴と安全管理について指導して下さい。また、

	<p>わなによる捕獲の安全管理について取りまとめた動画を配布していますので、映像資料を活用しながら研修していただくと効果的です。</p> <p>※応用ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業で採用した捕獲方法について情報を共有 <p>➤ 錯誤捕獲を防ぐ工夫が必要</p> <p>対象鳥獣の捕獲効率を高める上でも、他の鳥獣への負荷や事故発生の危険性を最小限に抑える上でも、錯誤捕獲を防ぐことは重要です。錯誤捕獲を防ぐ方法のひとつに、対象鳥獣の体や足の大きさ、体重や体高、力の強さ等身体的な特徴に応じて、わなやトリガーの形状、作動重量等を調整して、対象外の鳥獣が捕獲されないようにする方法があります。万が一錯誤捕獲が発生してしまった場合の対応について、あらかじめ発注者と事業者の間で取り決めておくことも必要です。</p> <p>➤ わなの安全管理では捕獲された後の殺処分が最も重要</p> <p>わなによる捕獲の安全管理においては、対象鳥獣が捕獲された後の殺処分等の処置作業時が最も重要です。殺処分時の安全確保においては、安全に殺処分の用具を使用することに加えて、死亡の確認を確実にすることが求められます。捕獲した鳥獣の拘束が不可実になるなわなや、強度に不安のあるわなは使用しないよう指導してください。</p> <p>➤ 一般の人が不用意にわなに近づかない配慮が必要</p> <p>わなを設置する場合は、そのわなごとに、見やすい場所に必要な事項を表示する義務があります。さらに、捕獲された鳥獣による事故防止のために、わなの表示とは別に、看板等によって、わなが設置してあることを周囲の人にわかるようにしておき、わなへの接近を回避できるよう工夫してください。</p>
<p>指定管理鳥獣捕獲等事業</p>	<p>➤ 指定管理鳥獣捕獲等事業の流れを理解する</p> <p>指定管理鳥獣捕獲等事業に関する発注者、受注者それぞれの事務フローについて記載しましたので、全体的な流れの理解を深めるよう指導してください。</p>

	<p>➤ 捕獲作業の実施</p> <p>捕獲作業において報告や確認が必要な項目については、報告様式やチェックシート等の作業記録を作成し、もれなく確認できるよう準備することが必要です。作業記録の様式は、受注した事業ごとに発注者と十分協議のうえ決定する必要があるため、実際の事業で用いる様式があれば、それについて指導してください。</p> <p>事業管理責任者は、業務計画書の中から捕獲作業に関係する項目だけを抜粋し、作業全体の流れや作業項目を整理した、事業従事者向けの作業マニュアルを作成するよう心がけることが重要です。また、事業管理責任者は、捕獲作業が始まる前に捕獲従事者向けの研修を実施する等、作業に関わる誰もが安全かつ正確な捕獲作業を実施し、作業内容を記録できるよう準備する必要があります。捕獲現場で未然に事故を防止するためには、安全管理規程だけでなく、より様々な場面での具体的な対応等を定めた安全管理マニュアルの整備と運用が必要です。これらについて研修で指導していただくようお願いします。</p> <p>※応用ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業を受託した都道府県等が必要としているデータ ・事業を受託した指定管理事業で使用している作業記録様式 <p>➤ 業務報告書を作成する上での留意点</p> <p>全ての業務の終了後には、発注者に業務報告書を提出する必要があります。業務報告書の目的は、実施した業務が仕様を満たしているかを客観的に示すことと、作業記録等で得られたデータを分析し、事業としての改善点、事業者としてより効率的・効果的な捕獲方法や実施体制を検討することにあります。研修では、業務報告書の役割や目的について指導してください。</p>
--	---

(7) 研修の進め方

講師は、講習の前提条件（認定鳥獣捕獲等事業者の責務、鳥獣捕獲等事業における捕獲手法と安全管理）をよく理解しておく必要があります。

【講習の前提条件】

- 認定鳥獣捕獲等事業者の責務
 - ・鳥獣の捕獲等に係る業務を受託し、契約に基づき確実に遂行する

- ・雇用した従事者に対し、使用者としての責任を果たす

- 鳥獣捕獲等事業における捕獲手法と安全管理
 - ・捕獲手法ごとの技術的特徴
 - ・捕獲手法ごとの安全管理
 - ・現場に応じた安全管理

研修は、環境省が作成した研修補助教材のパワーポイント資料等を使用して実施することを想定していますが、印刷したものを配布して説明しても構いません。講師は、パワーポイントのノート機能に記載された全ての内容を受講者に講習してください。講師は、受講者が講習内容を理解しやすいよう、鳥獣捕獲等事業の具体的な内容等、鳥獣捕獲等の経験を踏まえ、補足説明や経験談等を交えて講習することが望まれます。受講者が理解しやすいよう工夫して行ってください。

講習では、必ずしも講師が受講者に一方通行で解説する形式をとる必要はありません。むしろ、受講者の理解を助け、かつ集中力を持続させるため、講習内で必要に応じて質疑応答を受け付けましょう。

認定鳥獣捕獲等事業者
捕獲従事者研修実施要領

平成 31 年 3 月（初版）

発行／環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室
〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2
電話 03-3581-3351（代表）
